

第七課

なおのこと、聖霊を下さないことが

いっさいを含む賜物

「してみると、あなたがたも、悪い者ではあっても、自分の子どもには良い物を与えることを知っているのです。とすれば、なおのこと、天の父が、求める人たちに、どうして聖霊を下さないことがありますよう。」

(ルカ一一・一二)

主は、山上の説教で、すでに「なおのこと」というすばらしいおことばをお語りになりました。ルカのこの箇所は同じような質問ですが、少々違っています。ここでは、「良いもの」をくださるという代りに、「なおのこと、天の父が、求める人たちに、どうして聖霊を下さないことがありましよう」と言われています。主は、賜物の中で最も重要であり、最も良いものは聖霊であること、この賜物の中に他のいっさいの賜物が含まれていることを教えておられます。聖霊は、御父の賜物の中で第一のものであり、御父が与えることを最もお喜びになるものです。ですから、聖霊こそ、私たちが第一に求めなければならない主要な賜物なのです。

言うことのできないこの賜物の価値については、容易に理解できます。イエスは、御霊を、「父の約束」と言われました。神が父であることが啓示された約束です。善良かつ賢明な父親が、この世において与えることのできる最良の贈物は、父親自身の心です。父親が子供を教育する場合の大きな目的は、自分の子供に、自分の性質や性格を再現しようとするところにあります。もし、子供が自分の父親を知り、理解しようとするなら、また、成長してから、父親の願いと計画に従おうとするなら、更には、父親を喜び、父親に喜んでもらうことを最上のものとするなら、父親と一つ心、一つの精神を持たなければなりません。同じように、神が神の子に与える最高の賜物は御自身の御霊以外に考えられないのです。神は、御自身の御霊によって神として存在されます。御霊は神のいのちそのものです。神は御自身の御霊を、地上の子にお与えになります。このことの意味を考えてはしいのです。

父の御霊がイエスのうちにおられたということが、イエスのこの世における御子としての栄光ではなかったでしょうか。主のヨルダン川でのバプテスマの時、二つのものが一つになりました。すなわち、イエスを愛する子と宣言した御声と、イエスの上にくだった御霊です。そこで、使徒は私たちについてこう言います。「そして、あなたがたは子であるゆえに、神は『アバ、父。』と呼ぶ、御子の御霊を、私たちの心に遣わしてくださいました。」王は、王子の全教育課程を通して、王者の精神が喚起されることを求めます。天におられる私たちの父は、御自分のおら

を通して、王者の精神が喚起されることを通して、私
れる聖い天の生活に向けて、御自身の子として私たちを教育しようとされます。そのために、私
たちに御霊を与えようと心の底から思っておられるのです。イエスは御自身の血によって贖いを
全うされた後、私たちのために神の御前に行かれました。その目的は、私たちのために聖霊を受
け、聖霊を遣わしてくださるためです。御父の御霊、また御子の御霊として、御父と御子のい
ちと愛の全体が御霊のうちにあります。その御霊が私たちのうちにくだって、私たちを引き上
げ、神の交わりにあずからせてくださるのです。御霊は、御子を愛された御父の愛を私たちの心
の中にまで注いでくださり、その中を歩むようにと教えてくださいます。更に、御子の御霊とし
て、御子がこの地上におられた時のように、子供のような自由さと従順を私たちのうちに
吹き込んでくださるのです。御父が与えてくださる賜物の中に、これ以上高価ですばらしいもの
はありません。御父御自身の聖霊、御子の御霊の賜物だからです。

この真理は、おのずから、神の第一の、主要な賜物こそ、あらゆる祈りの第一の、主要な目的
とならなければならないということを示唆します。霊的生活のあらゆる必要のうちで、これこそ
唯一の必要なものなのです。すべてのものはイエスのうちに満ち満ちています。私たちはその恵
みと真理の満ち満ちたものの中から受けて、恵みに恵みを加えられるのです。聖霊は、約束さ
れた伝達者であり、その特別な仕事は、イエスとそのうちにあるいっさいのものを私たちのも
のとし、その幸いな経験を味わわせてくださることです。聖霊は、キリスト・イエスにあるいの

ちの御霊です。いのちがすばらしいのと同様、そのいのちを私たちに伝える代理人が与えられて
いることもすばらしいことです。私たちが聖霊の意のままにゆだね、聖霊の思いのままに私たち
のうちにやっていただくなら、聖霊は私たちのうちにキリストのいのちを示してください。
絶えずキリストのいのちを私たちのうちに保ち続けてください。私たちが御父の御座へ近づ
け、そこにとどめる祈りがあるとすれば、それは次の祈りです。私たちが子として受けた聖霊が
私たちのうちに流れ込み、そしてまた、満ち満ちたかたちで私たちのうちから流れ出ますように。
御霊は種々の賜物を分け与えてくださり、それによって信徒のすべての必要を満たしてくださ
います。ここで、御霊につけられた名について考えてみたいと思います。恵みの御霊。御霊は、
イエスにあるあらゆる恵みを明らかにし、それを分け与えてくださいます。信仰の御霊。御霊は、
信仰を始め、信仰を続け、信仰を増すことについて教えてくださいます。子としてくださる御
霊、確信を与えてくださる御霊。御霊は私たちが神の子であることをあかしし、信頼を与え、確
信をもってアバ父と呼ばせてくださいます。真理の御霊。私たちをあらゆる真理に導き、神のこ
とばの一つ一つを、実際に本当に私たちのものとしてくださいます。祈りの御霊。御霊によっ
て御父と語らせ、その祈りを必ず聞かれるものとしてくださいます。さばきの御霊、焼き尽す御
霊。御霊は、私たちのうちに、御父の聖なる御臨在を現し、それにあずかせてくださいます。
力の御霊。御霊は私たちを力づけ、大胆にあかしさせ、御父のみわざを効果的になさせます。栄

光の御霊。御国を相続することの保証であり、来るべき栄光をあらかじめ示し、味わせてくださる方です。神の子が、本当に子として生きるために必要なのは、ただ一つのことです。すなわち、この御霊に満たされることです。

きょう、イエスの学校で、イエスが教えてくださる学課は次のことです。すなわち、御父は、私たちが、「あなたがたも……自分の子どもには良い物を与えることを知っているのです。とすれば、なおのこと、天の父が、求める人たちに、どうして聖霊を下さないことがありましよう」とのみにことばを、子供のように信じて求めるなら、聖霊を与えようとしておられるのです。「わたしはわたしの霊をあふれるばかりに注ぐ」という御約束と、「御霊に満たされなさい」という御命令の中に、神が私たちに与え、私たちが得ることのできるものの標準があります。私たちはすでに、神の子として御霊を受けています。しかし、更に御霊の賜物と働きを求めなければなりません。またそれのみでなく、一瞬一瞬御霊に導かれて歩めるように、また、御霊が私たちに完全に占領してくださるように求めるべきです。樹液をすでに十分に与えられている枝が、完全な実を結ぶためになおいつその樹液の供給を求めるように、御霊を与えられている信者もおいっそう与えられるように御霊を求めるべきです。偉大なる教師であられる方が私たちに学ばせたいと願っておられることは、私たちの期待と祈りの標準が、神の約束と命令以下のものであってはならないということです。私たちは、あふれるばかりに満たしていただかなければなりません。

せん。「なおのこと」ということばに表された神の父としての愛が、求める時に必ず与えられることの保証です。主は、私たちが、この保証にもとづいて求めることを望んでおられます。

今、このことを信じようではありませんか。御霊に満たされることを祈る時には、感情によって回答を求めることをやめましょう。霊的な祝福は、すべて信仰によって受け取らなければなりません。御父が、祈っている御自身の子に聖霊を与えてくださるということを信じたいと思います。今、祈っているこの時に、「私は自分が求めているものをすでに与えられています。御霊の満たしは自分のものとなっています」と、信仰によって言わなければなりません。この信仰をしっかりと持ち続けましょう。神のみことばの力によって、私たちは、求めるものをすでに得ているということが分ります。自分の祈りが聞かれたことを感謝し、自分が受け、今それを自分のものとして握っていることを感謝しましょう。すでに与えられた祝福、すでに信仰によって手にしている祝福が、自分の全存在を貫き、満たすように、しっかりとした信仰の祈りをささげ続けましょう。このように信仰の感謝と祈りをささげる時に、私たちのたましいは御霊に開かれ、全く、しかもゆるぎなく御霊のものとされるのです。私たちの祈りは、私たちが求めたり望んだりするだけでなく、自分のものとし、保持するような祈りとして完全な祝福を受け継ぐのです。祈る時には、いつでも、救い主がきょう私たちに教えようとする教訓を心にとめるようにしましょう。この地上に確かなことが一つあるとすれば、それは、御父が私たちを御霊で満たしたいと

望んでおられること、そして喜んで与えてくださることです。

このように、自分で信じることに、毎日天にある宝を取り出すことを学ぶ時、私たちはどのような祈りの自由と力をもって、御霊が神の教会の上に、すべての人の上に注がれることを祈ることができるようになるでしょうか。祈りの中で御父を知ることが学んだ者は、大いなる確信をもって他の人のためにも祈ることを学びます。自分のためでなく、他の人のために求める時、御父はそれを最大限に与えてくださるのです。

天の父よ。あなたは、御子をお遣わしになって、御自身と、御父としての愛と、その愛がもたらすすべてのものを私たちに啓示してくださいました。更に、あなたが与えてくださる賜物の中で最大のものが聖霊であることをお教えくださいました。

ああ、私の父よ。私はみもとに行き、こう祈ります。私は聖霊に満たされること以外、何の願いも持ちません。御霊がもたらしてくださる祝福は、とうていことばに尽すことのできないものです。それがまさに求めているところのものです。御霊は、あなたの愛を私の心に注ぎ、あなた御自身で満たしてくださいます。私はこれを慕い求めます。御霊は私のうちに、キリストの思いといのちを吹き込んでくださいます。それは、私がキリストのように御父の愛の中に生き、また

愛のために生きるようになるためです。私はこれを慕い求めます。御霊は、私の歩みと働きに必要なたからの力を与えてくださいます。私はこれを慕い求めます。

御父よ。私は、「なおのこと、聖霊を」と言われた主のみことばに信頼して、聖霊を求めます。

あなたが私の祈りを聞いてくださることを信じます。私は今求めるものをいただけました。御父よ。私はそれを得たと宣言します。御霊の満たしは私のものとなりました。私はきょう、これを信仰の賜物としていただきました。御父が、約束されたことをすべて御霊によって成し遂げてくださることを、信仰によって認めます。御父は、待ち望む子たちに喜んで御霊を吹き込んでくださる方です。御父は、御霊との交わりを絶やさないお方だからです。アーメン。

注1

ギリシャ語では、受けるのも取るのも同じことばを用います。イエスは「だれであれ、求める者は受ける、」と言われた時、最後の晩餐で「取って食べなさい」と言われた時に用いられたのと同じ動詞を使っておられます。復活の朝、「聖霊を受けなさい」と言われた時も同じです。受けるということは、神が与えてくださることだけでなく、私たちが受け入れることを意味するのです。